

新潟民医連に加盟する法人・事業所の取り組みを紹介します。 2024年4月2日（火）
発行者：宮野 大

新潟民医連 学運交 5年ぶりの集合開催 307人が参加

3月30日(土)新潟ユニゾンプラザを会場に第27回新潟民医連学術運動交流集会が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けての中止、オンライン開催を経て5年ぶりに集合での開催となり、合計307人が参加しました。

(午前の全体会)

○記念講演

栃木民医連生協ふたば診療所の千嶋巖先生から「地域に一步足を踏み出すために一生協ふたば診療所の取り組み」とのテーマで講演頂きました。オンラインで看護師長さんも参加しました。

○特別報告

「新潟水俣病裁判(ノーモアミナマタ第2次訴訟)」の現状と支援について原告団長、新潟水俣病阿賀野患者会事務局長よりお話を伺いました。

(分科会)

全体で42演題が集まり、3つの分科会に分かれての発表となりました。優秀演題発表者は以下の皆さんです。おめでとうございます。

(終わりの分科会)

○能登半島地震に関する報告

坂井輪会の事務局長：最も被害の大きかった法人・事業所です。地割れが発生し施設や駐車場に被害があり、修繕にかかる費用について行政と相談が進められています。また職員160人中30人程が自宅等に被害を受けました。事務局長からは「沢山の励ましを受け、坂井輪会は頑張っています。皆さんも一緒に頑張りましょう」と締めくくられました。

下越病院DMATの出動報告：1/4～6の活動で、災害活動拠点本部員として、参集するDMAT隊を集約し、活動状況を把握・支援する重要な役割を果たしました。

○まとめ

岡田節朗会長より、この間実施されたオンライン企画では200人前後の参加でしたが、今回は約300人が参加し、集合形式の方が多く集まることに触れられました。最後に、能登半島地震に対する支援要請が今後も続くので、みんなで支援していきましょうとの呼びかけがありました。

優秀演題

○第一分科会

- ・2型糖尿病患者における甘い物に対する反応抑制機能と運動の関係
- ・コロナ禍で変わった糖尿病療養指導のかたち

○第二分科会

- ・看護師確保にむけた取り組み
- ・9年ぶりの『県連リハビリ部会総会』開催報告

○第三分科会

- ・やればできる！！～精神的な閉じこもりだったが、就労につながった症例～
- ・その人らしい生活を目指し、活動・参加に焦点をあてアプローチした症例



講演の様子